

科目名	教育学		
担当教員	山口 アンナ真美		
配当年度	2年前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	教育的関りに対する理解を深め、看護活動に活用できる能力を養う。		
到達目標	看護師になったときの患者指導や新人の指導ができるような教育的な知見を養うことを目標とする。そのために、教育とは何か、我々はなぜ勉強をしなければならないのか、教えること・学ぶことは何かを歴史的・比較教育的な観点から探究する。さらにグループワーク・調べ学習・発表などの活動を通して「情報や文章を正確に読み解き対話する力」、「新たな価値を見つけ生み出す感性」の育成を目指す。		
授業概要	<p>現代社会はグローバル化と情報化が進むことにより、これまでない複雑な課題を抱えている。学校現場では、グローバル化する社会で生き抜く力及びAIやビッグデータなどの先進技術を活用し、新たな価値の創出できる人材育成が求められている。つまりAIなどと共存していく時代を生きるためには「人間の強み」を発揮し、AIなどを使いこなせる力ー「情報や文章を正確に読み解き対話する力」、「新たな価値を見つけ生み出す感性、好奇心、探究力」ーの育成が求められている。</p> <p>学校現場では教師のストレスや多忙、いじめ等が課題とされている。しかし、何が教育の真の課題であって、それを改善して現代社会が求める力を育成するためには、「教育とは何か」、「知識とはどのように発展するか」などの基礎的な概念をしっかり持つ必要がある。</p> <p>本授業ではまず、教育とは何か、学校は何のためにあるのか、我々はなぜ勉強をしなければならないのか、などの疑問を出発点とし、教育はどのような意味を持っているかについて歴史的及び比較教育的な観点から探究する。こうすることで変化の激しい今後の社会を担う子どもや若者たちには、どのような学校、どのような教育が求められているかを考える。</p>		
授業計画・内容	<p>a.教育の基本原則と理念</p> <p>第1: 教育と人間の成長と発達:教育の意味、役割と目的</p> <p>第2: AI時代の学校の役割:一斉授業の発明から今日への変化</p> <p>第3: ヨーロッパと日本における教育理念の比較</p> <p>第4: 江戸時代から明治時代の教育観と教育制度</p> <p>第5: 近代学校の成立と特徴</p> <p>第6: 新しい学習指導要領:主体的・対話的な深い学びを通して「考える力」を育てる授業作り</p> <p>b.諸外国の教育事:日本との共通点と相違点を考える</p> <p>第7: 世界の教育事情</p> <p>第8: 国際学力調査PISAから見えてくる日本の教育課題</p> <p>第9: 幼児教育:デンマーク→森の幼稚園</p> <p>第10: 幼児教育:ドイツ→問われるエリート教育</p> <p>第11: 小学校5年生:オランダ→個性とコミュニケーション力を重視する教育制度</p> <p>第12: 小学校5年生:中国→教育熱の背景にある格差社会と競争</p> <p>第13: いじめ:韓国の先端的ないじめ対策</p> <p>第14: いじめ:アメリカ→ルールと罰則</p> <p>c.まとめ</p> <p>第15: 最終レポートの作成</p>		
使用テキスト	講義担当者作成によるプリント資料やDVDなどを使用する。		
参考書			
評価基準方法	30点:授業参加への態度、グループレポート、個人レポート、発表 70点:最終個人レポート		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	社会学		
担当教員	翁 康健		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	社会を形成する要素や社会現象について学び、社会的存在としての人間理解を深める能力を養う。		
到達目標	1 社会学の概念、理論などの基礎知識を勉強し、社会についての見方を学ぶ。 2 現代社会が抱える諸課題・諸問題への理解を深める。		
授業概要	現代社会に特徴的な社会現象を取り上げて紹介する。社会学の概念、理論を勉強しながら、広い視野で社会が抱える問題を考察していく。座学が中心だが、適宜グループワークで議論を行う。毎回ミニレポートを課す。		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「社会学」の概観と社会調査</li> <li>2 人間の行為と相互行為を理解する</li> <li>3 家族：家族関係の変容</li> <li>4 教育：学歴社会と文化的再生産</li> <li>5 労働：非正規雇用と若者の就職問題</li> <li>6 階層・段階：格差と社会的排除</li> <li>7 ジェンダー・セクシャリティ：フェミニズムとLGBT</li> <li>8 政治・社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ</li> <li>9 グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ</li> <li>10 メディア・コミュニケーション：情報社会の光と影</li> <li>11 少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護</li> <li>12 社会福祉：医療と社会保障</li> <li>13 地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型</li> <li>14 宗教：宗教の社会貢献</li> <li>15 全体のまとめ</li> </ol>		
使用テキスト	使用しない。ただし毎回授業資料を配布する。		
参考書	櫻井義秀他編、2014、『アンビシャス社会学』北海道大学出版会。		
評価基準方法	毎回のミニレポート60%と期末レポート40%により評価する。		
備考・学生へのメッセージ	ぜひ社会学の勉強を通して、看護・臨床が抱える課題を考えてみてください。		

科目名	英語 I		
担当教員	房崎 清隆		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療に関わる英語に親しみ, 基本的な用語を身につけ, 関係文書の読解力・活用力を高め, 加えて英語のコミュニケーション能力の向上を目指す.		
到達目標			
授業概要	各Chapterの構成要素 I. Vocabulary Study            II. Listening Activity III. Reading Activity            IV. Writing Activity V. For your Information		
授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Self-introduction by each student</li> <li>•English composition (Home work )</li> </ul> Chapter 1    Polio Chapter 2    Personal Prescription Chapter 3    Hay Fever Chapter 4    (Anti-Diarrheal/Anti-Gas) Chapter 5    Sleeping problems Chapter 6    SARS Chapter 7    Diabetes Review Test 1		
使用テキスト	English for Medicine-医療・看護のためのやさしい総合英語(金星堂)		
参考書			
評価基準方法	1 授業参加の態度 2 発表の状況 3 試験結果 以上に基づいて総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習すること.</li> <li>・反復練習すること.</li> </ul>		

科目名	英語 II		
担当教員	佐藤 有		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	英語の思考力を養う。 英会話力を高め、医療現場で必要とされる基礎的な英語を養う。		
到達目標	1 情報を的確に理解したり, 自分の考えを適切に伝えることができる. 2 医療現場で想定される基礎的な英語を表現できる。		
授業概要	看護・医療に係わる英文資料に基づいた学習(「読み・書き・聴く・話す」)並びに現場で想定される基礎的な英語会話の学習をする。		
授業計画・内容	1 Essay Structure (英語エッセイの構造)①/リズムとイントネーション① 2 Essay Structure (英語エッセイの構造)②/リズムとイントネーション② 3 Practices in Nursing Communication (看護とコミュニケーション)①/ 災害時の英語 4 Practices in Nursing Communication (看護とコミュニケーション)②/ 受付時の会話 5 Coronavirus Protection (コロナウイルス予防対策)/問診の会話/音 のメカニズム① 6 Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's (運動がアルツハイ マーを予防①)/音のメカニズム② 7 Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's (運動がアルツハイ マーを予防②)/音のメカニズム③ 8 World's First Malaria Vaccination Begins (世界初マラリアワクチンプ ログラム)/日常生活援助の会話		
使用テキスト	教科書は使用しません。資料は配布します。		
参考書			
評価基準方法	試験		
備考・学生への メッセージ	英語の辞書は用意してください(音声が見えるものが好ましいです)。		

科目名	体育		
担当教員	古川 昇		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	体力を増強し、健全な身体発育を図るとともに、スポーツ実践を通して社会性や協調性を養う。		
到達目標	課題テストの内容を含め、第1回目の授業におけるガイダンスで説明。		
授業概要	本授業は2回目以降から2講義続きという時間的構成のため、体力的な面や集中力の持続等を考慮し複数の科目を組み合わせ実施する。また、自主的な意欲の喚起も念頭に、フリーの時間帯においても課題の追求に留意することとする。尚、実技開示前の若干の時間(5~6分)程度を体育に関する理論に割く予定。		
授業計画・内容	<p>第1回 3講目(講堂)全体ガイダンス、卓球(歴史、ルール、技術、課題)について説明 試合(シングルス・ダブルス)課題練習とテスト</p> <p>第2回 3講目(スポーツセンター)体カテスト(ボール投げ、三段跳び)バレーボール、羽球の練習と試合</p> <p>4講目 バレーボール、羽球の練習及び試合</p> <p>第3回 3講目・4講目 バレーボール、羽球の練習と試合</p> <p>第4回 第3回と同じ</p> <p>第5回 第3回と同じ</p> <p>第6回 3講目バスケットボールとバレーボールの試合 4講目羽球、バレーボールの試合</p> <p>第7回 3講目バスケットボールとバレーボールの試合 4講目バスケットボール(課題テスト)、バレーボール(課題テスト)</p> <p>第8回 3講目・4講目羽球試合、バレーボール(試合と課題テスト)</p>		
使用テキスト	なし		
参考書	なし		
評価基準方法	課題テストの内容を含めた総合的判断で絶対評価(認定)		
備考・学生へのメッセージ	出席状況や授業への積極性を大いに重視します		

科目名	カウンセリング理論と技法		
担当教員	加藤 尚子		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	カウンセリングの基礎理論を学びながら、医療現場で役に立つカウンセリング技術を身につける。		
到達目標	カウンセリング技法を身につけ、基礎的なカウンセリングができるようになる。		
授業概要	授業の前半は基礎的な理論、カウンセリング技法を学習する。後半は実際に二人一組での演習を中心に行う。		
授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 自己を知る①</li> <li>2 カウンセリングとは何か 自己を知る② カウンセリングの初歩技法①</li> <li>3 こころの構造 自己を知る③</li> <li>4 ロールプレイの基礎</li> <li>5 カウンセリングの初歩技法②</li> <li>6 リフレーミング Rogersの理論</li> <li>7 カウンセリングの初歩技法③ 事例検討 ビデオ「信頼関係を結ぶ面接技術」</li> <li>8～15 カウンセリング演習</li> </ul> <p style="text-align: center;">テスト</p>		
使用テキスト	看護のためのコミュニケーションと人間関係 中央法規出版		
参考書			
評価基準方法	テストは全授業終了時に1回行う。 授業態度、ワークブック等の提出、演習での学習意欲などを元に総合的に行う。		
備考・学生へのメッセージ	カウンセリングを学ぶことによって忙しい医療現場でも、きちんと人の話を聴く力を身につけてほしいと思います。楽しみながら一緒に学んでいきましょう。		

科目名	人間関係論		
担当教員	葛西 俊治		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	看護現場において、患者・医師他の医療関係者などとの的確で心を通う対人関係能力の基礎を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 関わること・説明すること・お願いすること・断ることに関わる基礎的な理解を獲得する。</li> <li>2 簡単な実習を通じて、自身の対人関係能力の傾向を把握する。</li> </ol>		
授業概要	配布プリントについての解説を行い、テーマに関する簡単な実習を行う。そうした学習内容についてショートレポートを提出する。		
授業計画・内容	<p>特にニコマ続きの講義では、適宜、体験学習の要素を組み込んで指導する。        主なテーマは次の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間関係論の概説</li> <li>2 個人的コミュニケーション</li> <li>3 行為と行動交換</li> <li>4 患者VS看護師の関係性</li> <li>5 人間中心カウンセリング</li> <li>6 人間中心カウンセリング技法</li> <li>7 マスローの五段階動機理論</li> <li>8 自己主張訓練について</li> <li>9 対人距離とプロセミックス</li> <li>10 リラクゼーションの理論と実際</li> <li>11 リラクゼーションの身体心理</li> <li>12 感情と論理的思考</li> <li>13 共笑とラポール</li> <li>14 自他の分離と共感性</li> <li>15 人間関係論のまとめ</li> </ol>		
使用テキスト	毎回プリントを配布して行う。		
参考書			
評価基準方法	講義内でショートレポートを提出し、その記述内容と理解の程度に基づいて評価する(90%)。まとめのレポート(10%)との合計で成績評価する。		
備考・学生へのメッセージ	講義の際には具体的な例を示してできるだけわかりやすく解説する。実習を含むので積極的に体験して理解を深めてほしい。		

科目名	リハビリテーション論		
担当教員	長束 基(4時間) 芳村 康平(4時間) 加藤 真伸(3時間) 久野 穰(4時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	リハビリテーションの意義と方法について学び、身体や精神の機能回復に向けて援助・技術を理解する。		
到達目標			
授業概要			
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーションの定義と概念</li> <li>2 障がい者の分類と構造 ICFによる障害分類</li> <li>3 リハビリテーション医療システムとチーム医療</li> <li>4 運動器系の障害とリハビリテーション 廃用症候群を防ぐには 積極的リハビリテーションプログラム 運動の種類</li> <li>5 検査手技 筋収縮の比較 筋力増強の3大条件 間接可動域 MMT ブルンストロームテスト アンダーソン改訂基準 ADL評価</li> <li>6 中枢神経系の障害とリハビリテーション 中枢神経麻痺の診方 嚥下・言語障害のリハビリテーション</li> <li>7 呼吸・循環系障害とリハビリテーション</li> <li>8 トランスファーの介助演習 車いす⇄ベッド 起き上がり 他動可動域訓練</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 リハビリテーション看護 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況とテストで総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	人の生活と食事		
担当教員	川尻 有貴子		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	食事療法の意義と方法を学び、健康回復・保持・増進のための食事療法を行う際の基礎的知識・技術を養う。		
到達目標			
授業概要			
授業計画・内容	<p>1 栄養指導の過程</p> <p>1) 栄養指導の過程</p> <p>2) 栄養指導と食事の調整</p> <p>3) 患者のための栄養指導</p> <p>2 食事療法の実際</p> <p>1) 消化器系疾患患者の食事指導 咀嚼嚥下障害のある患者-経腸栄養剤・ゼリー類 嘔気嘔吐のある患者-化学療法・放射線療法 下痢・便秘・クローン病患者 肝臓病のある患者 胃潰瘍のある患者 膵臓病のある患者</p> <p>2) 循環器系疾患患者の食事指導 高血圧症のある患者 動脈硬化のある患者 虚血性心疾患のある患者 心不全のある患者</p> <p>3) 呼吸器系疾患のある患者の食事指導 呼吸不全のある患者</p> <p>4) 代謝性疾患患者の食事指導 糖尿病のある患者</p> <p>5) 腎不全患者・透析患者 慢性腎不全患者・透析患者</p> <p>6) 手術後の患者の食事指導 食道・胃切除後患者・大腸切除後患者</p> <p>7) その他 痛風, 貧血, 骨粗鬆症, 褥瘡, 無食欲, 大食症</p>		
使用テキスト	わかりやすい栄養学 (ヌーヴェルヒロカワ)		
参考書			
評価基準方法	出席状況・講義終了後のペーパーテストで総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	社会福祉		
担当教員	橋本 菊次郎		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療・看護の隣接領域である社会福祉について、概念や枠組みなどの社会福祉の全体像の理解および施策、制度及びサービスについて具体的に理解する。また社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の視点、方法について学び、医療・看護との連携についても理解を深める。		
到達目標			
授業概要			
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(講義展開, 評価方法等) 社会福祉全体像の理解①(社会福祉キーワード)</li> <li>2 社会福祉全体像の理解②(グループワーク)</li> <li>3 社会福祉の基礎概念 社会福祉の歴史, 基礎概念</li> <li>4 社会保障制度と社会福祉 ① 社会保障制度, 社会福祉の法制度</li> <li>5 社会保障制度と社会福祉 ② 現代社会の変化, 社会保障・社会福祉の動向</li> <li>6 医療保障 健康保険制度と国民健康保険, 医療制度改革</li> <li>7 介護保障 介護保険制度の背景と歴史, 介護保険制度の概要及び課題と展望</li> <li>8 所得保障 年金, 社会手当, 労働保険</li> <li>9 公的扶助 生活保護制度, 低所得対策, 近年の動向</li> <li>10 社会福祉の分野とサービス① 児童福祉</li> <li>11 社会福祉の分野とサービス② 高齢者福祉</li> <li>12 社会福祉に分野とサービス③ 障害者福祉①</li> <li>13 社会福祉の分野とサービス④ 障害者福祉②</li> <li>14 社会福祉実践と医療・看護① 社会福祉援助技術</li> <li>15 社会福祉実践と医療・看護② 医療・看護との連携, まとめ</li> <li>16 テスト</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 社会福祉 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	テストにより評価する。レポート(リアクションペーパー), 授業参加態度(演習など)も加味する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	総合医療論		
担当教員	小倉 滋明(16時間) 秋田 佳祐&鳥潟 卓美&深坂 謙志朗(14時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療を総合的な立場から理解するために、最近の臨床現場で重要視されている様々な問題について、トピックスとして取り上げ学習する。 社会福祉と医療の連携、相互支援、当事者、地域住民との協働について学習する。		
到達目標	医療を取り巻く現状と諸課題について学び、医療従事者の一員としての倫理観を養う。 社会保障制度について学び、社会資源を活用する際の基礎的知識を養う。 社会福祉と医療・看護の連携についてソーシャルワーカーの業務を通して学ぶ。		
授業概要			
授業計画・内容	<p>《小倉講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 脳死について 脳死をテーマとして、人の死に対する理解を深め、臓器移植を含め倫理的な問題についても考察する。</li> <li>2 人工臓器について 臓器不全という概念を理解し、それを人工的に代替する新しい方法について学習する。</li> <li>3 死生学 医療者として死を身近なものとしてとらえ、人がいかに生きるべきか、また、死ぬべきかを専門家の意見を参考に各自が考える。</li> <li>4 インフォームドコンセントについて 臨床現場におけるインフォームドコンセントの重要性を理解し、医療者としての役割について理解する。</li> <li>5 認知症について 認知症の発症、症状などを理解し、それに対する対処法、ケアなどを学習する。</li> <li>6 最近よく使用される医学用語について ゲノム、医の倫理、尊厳死、ホスピス、バイオエシックスの考え方、クローン技術、遺伝子操作など医療として知らなければならないことをしっかり理解する。</li> <li>7 DPC制度について 包括医療費支払い制度(DPC)の概要と基本的な考え方を理解する。</li> </ol> <p>《秋田講師&amp;鳥潟講師&amp;深坂講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療ソーシャルワーク総論—社会福祉士、精神保健福祉士の医療領域における役割と視点</li> <li>2 医療ソーシャルワーク各論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)MSW業務～病院におけるソーシャルワーカーの役割、看護師とソーシャルワーカーとの連携</li> <li>2)援助技術の用い方～インテーク、アセスメント、自己決定の尊重、権利擁護</li> <li>3)アディクション・アプローチ～アルコール依存症の事例を通し患者、家族への対応</li> <li>4)虐待・DVに関わる援助職の視点と実践～デートDV、性暴力のトピックスから</li> <li>5)障害者福祉-精神保健福祉の歴史と最近の動向を学ぶ～当事者の体験から学ぶ</li> <li>6)コミュニティワーク～精神保健ボランティアの実践から当事者、専門職と地域住民との協働を考える</li> </ol> </li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 総合医療論 (医学書院) 系統別看護学講座 社会福祉 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 点数配分 小倉講師 50点 秋田&鳥潟&深坂講師 50点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	研究の基礎		
担当教員	斎藤 登美枝		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	看護研究のプロセスについて学び、看護研究を注目していく上で必要な方法を学ぶ。		
到達目標	看護研究を進めるプロセスがわかる。 文献検索の方法がわかり、自分で見つけることができる。 文献を読解するための基礎的知識を習得する。		
授業概要	1.講義内で、文献を提示します。各自で読み参加してください。 多くの文献を読むことで、力がついてきます。 2.文献検索の演習を行います。自分でも検索に取り組んでください。 3.成人看護学実習終了後に、ケースを選択し担当教員の指導を受けながらレポートを期日までに提出してください。 4.発表会は2月25日と26日を予定しています。スケジュールは別途提示します。		
授業計画・内容	1 看護研究とは 2 リサーチクエスチョンをたてる 3 文献レビューとその方法 4 文献の種類と文献検索の方法(演習) 文献クリティーク 5 研究デザイン①量的研究 6 研究デザイン②質的研究 7 研究計画書と倫理的は医療 8 研究成果の書き方と発表		
使用テキスト	系統別看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)		
参考書	参考にする文献は講義の時に提示します。		
評価基準方法	1 筆記試験 85点 2 ケーススタディのレポートの提出点+発表 15点  ただし、筆記試験の6割(51点)に満たない場合には再試験を実施します。		
備考・学生へのメッセージ	研究は看護職にとって欠かすことができないものです。難しい言葉も沢山でてきますが嫌にならずに学習しましょう。また、レポート作成は時間がかかります。指導を受け、着実に進んでいきましょう。		

科目名	成人看護Ⅱ(急性期)		
担当教員	長谷川 琢(18時間) 小原 菜穂(4時間) 小池 千佳子(4時間) 藪田 加恵(4時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	急性期・周手術期における対象と家族を理解し、急速な病状の変化に対応できる援助技術を学ぶ。 直腸・結腸の手術を受ける対象を理解し、ケアを学ぶことができる。 手術を受ける患者の特徴と看護を理解することができる。 救急看護の定義と特徴を学び、救急看護の場について理解を深めることができる。		
到達目標	1. 術前・術中・術後の看護を理解する。 2. 手術を受ける患者の看護を理解する。(胃切除術、膵胆管系、肝切除、大腸(直腸含む)、肺) 3. 生命危機的状況にある患者の看護を理解する。(心筋梗塞、熱傷など)		
授業概要	周手術期看護では、基礎知識を使って事例で理解を深めます。		
授業計画・内容	《長谷川講師》		
	回数	授業計画	内容
	1回目	周手術期とは何か	周手術期について、日帰り手術
	2回目	手術前の看護	外来看護の役割、術前の具体的援助
	3回目	手術後の看護	回復を促進するための看護、術後合併症
	4回目	手術後の看護	術後合併症の予防と発生時の対応
	5回目	手術後の看護	演習:呼吸管理(パルママスクを使用した人工呼吸)
	6回目	消化器系の手術を受ける患者の看護	胃、食道
	7回目	消化器系の手術を受ける患者の看護	膵胆管系、肝臓
	8回目	肺切除の手術を受ける患者の看護	胸腔ドレナージの管理など
	9回目	危機的状態患者の看護	心筋梗塞、熱傷、急性腹症、心臓手術
	*演習:気管内挿管の患者の観察と呼吸管理(模擬患者とモデルを使用し演習をする)		
	《藪田講師》 ○手術中の看護の要点 ○手術室における看護の展開		
《小原講師》 ○人工肛門を造設する患者の看護 1回目 手術前の看護—身体的・社会的・心理的アセスメント、看護の実際 手術後の看護—手術後の身体的・心理的ケア・ストマ造設後の看護の実際 2回目 演習: 装具交換の実技演習 方法: 1. 装具交換のデモンストレーション 2. グループに分かれて、ストマ模型を使用し実際にパウチ交換を行う			
《小池講師》 1 救急看護・救急看護の定義・救急看護の役割・救急看護の求められるもの 2 救急医療体制 3 救急看護の場 4 救急看護における法律と倫理 5 救急看護を受ける患者の特徴 病態に伴う特徴、治療に伴う特徴、患者・家族の心理社会的特徴 観察とアセスメント			
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院) 系統看護学講座 別巻 救急看護学(医学書院)		
参考書	はじめのドレーン管理 清水潤三 (メディカ出版) 周手術期看護 安全・安楽な看護の実際 中村美和子(監)(インターメディカ)		
評価基準方法	評価配点:長谷川講師(55点) 藪田講師(15点) 小原講師(15点) 小池講師(15点) *筆記試験・出席状況・演習のレポートをもとに総合的に評価を行う。		
備考・学生へのメッセージ	周手術期の授業では、事例を用いながらアクティブラーニング形式で授業を進めます。提示された課題は必ず行って授業に参加して下さい。		

科目名	成人看護Ⅲ		
担当教員	原野 理(10時間) 山田 恵美子(4時間) 小熊 佐有美(8時間) 清田 沙織(8時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	回復期・リハビリテーション期における対象と家族を理解し、日常生活動作の拡大と社会復帰にむけた援助方法を学ぶ。 手術療法が乳がん患者に与える身体的・心理的・社会的影響を理解する。 手術侵襲からの順調な回復を促すための看護方法、および患者のセルフケアを促進するための看護を理解する。		
到達目標	リハビリテーションの本来の意味について述べることができる。 ICFの考え方を理解する。 リハビリテーションチームにおける看護師の役割と機能について述べることができる。 人権思想の普及とともに障害者福祉の理念がどのように発展してきたかを述べることができる。 リハビリテーション看護の対象となるわが国の身体障害者の動向を理解する。 わが国の障害者福祉施策がどのような歴史的な経過をたどって今日に至ったか、その根底を流れる理念を述べることができる。 障がい者福祉対策の基盤となっている主要概念を述べることができる。 患者・家族の辿らざる心理過程について、その内容と生じる問題の概要を理解し述べることができる。 急性期・回復期・維持期の各ステージにおける患者の特徴と看護援助のポイントを理解し述べるができる。 様々な疾患においてリハビリテーションを必要とする患者と家族への看護援助を理解し述べるができる。		
授業概要	原野講師の1～3回目は座学授業です。4～5回目は事例展開した内容をグループごとに発表してもらいます。他講師の授業は、座学形式です。		
授業計画・内容	<p>《原野講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション看護とは リハビリテーションの考え方</li> <li>2. リハビリテーションにおける倫理と法的問題</li> <li>3. リハビリテーションを必要とする人の特徴と理解 経過別リハビリテーションの考え方</li> <li>4・5事例(片麻痺のある患者の援助、障害の受容段階の理解、心理面の援助)事例検討発表 事例検討まとめ</li> </ol> <p>《小熊講師》</p> <p>脳血管疾患を持つ患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症状・障害をもつ患者の看護</li> <li>2. 治療・処置を受ける患者の看護</li> <li>3. 疾患をもつ患者の看護(脳梗塞患者の看護・パーキンソン病患者の看護・脳腫瘍患者の看護・クモ膜下出血患者の看護・下垂体腺腫の摘出術を受ける患者の看護・頭部外傷患者の看護)</li> </ol> <p>《清田講師》</p> <p>運動器疾患をもつ患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 援助のための主な知識と技術</li> <li>2. 症状に対する看護</li> <li>3. 検査を受ける患者の看護</li> <li>4. 保存療法を受ける患者の看護</li> <li>5. 手術を受ける患者の看護</li> <li>6. 経過に応じた患者の看護</li> <li>7. 疾患をもつ患者の看護(大腿骨頭部骨折患者の看護・腰椎椎間板ヘルニア患者の看護・脊椎損傷患者の看護・骨腫瘍患者の看護・腰痛を訴える患者の看護)</li> </ol> <p>《山田講師》</p> <p>乳房の手術を受ける患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術を受ける患者の看護 (術前・術後における問題と看護援助)</li> <li>2. 乳房の手術後のリハビリテーション</li> <li>3. ボディイメージの受容・変形の受容を促すケア</li> <li>4. リンパ浮腫のケア (リンパ浮腫のメカニズムと症状・セルフケア指導)</li> </ol>		
使用テキスト	成人看護学 リハビリテーション看護論(第2版)中西純子、(ヌーヴェルヒロカワ) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経(第13版) 竹村信彦他(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[10] 運動器・神経(第13版) 加藤光寶(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論(第8版) 北島正樹(医学書院)		
参考書	講義時に提示します		
評価基準方法	原野講師 筆記試験(15%) 事例展開・発表・参加態度(15%) 山田講師(20%) 小熊講師(25%) 清田講師(25%)		
備考・学生へのメッセージ	必ず、予習復習をして授業に参加してください。		

科目名	成人看護 IV (終末期)		
担当教員	上岡 晃&竹内 純恵(24 時間) 吉田 尚子(6時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	終末期における対象・家族を理解し、その人らしい人生を送るための援助方法を学ぶ。		
到達目標	ターミナル期における症状のメカニズムとマネジメントを知ることができる。 ターミナル期のコミュニケーション技術・技法を知ることができる。 ターミナル期における家族・遺族のケアを知ることができる。 ターミナル期のケアについて知ることができる。 健康障害を持つ対象を理解し、健康の段階に応じた看護を展開する能力を養う。 がん化学療法の目的を理解するとともに、一般的副作用のポイントを理解する。 がん化学療法を受ける対象の理解と看護について理解を深める。		
授業概要	講義をしながら、グループワークで事例検討を行います。途中でクイズ形式も発問を挟みます。		
授業計画・内容	<<吉田講師>> 1 がん化学療法の基礎知識(目的と適応, 殺細胞性薬剤と分子標的治療薬) がん化学療法看護の原則 抗がん剤の安全な取扱い 2 抗がん剤による副作用の症状マネジメント(骨髄抑制, 悪心・嘔吐, 皮膚障害) 3 抗がん剤実施時の急性症状と看護 (過敏症状・インフュージョンリアクション, 血管外漏出) がん化学療法中の患者に対する支援 (セルフケア支援, 意思決定への支援, チーム医療) <<上岡講師・竹内講師>> 1 緩和・ターミナル看護学の考え方 ターミナルケア・緩和ケアとは 死にまつわる文化 ターミナル期にある人の療養の場 (一般病床・ホスピス・在宅におけるターミナルケア) 死をめぐる倫理的課題 (真実を伝えること・意思決定・リビングウィル・安楽死と尊厳死・セデーション) 2 終末期における家族・遺族のケア 3 終末期にある意思決定 4 終末期のコミュニケーション技術 5 終末期ケアにおける様々な機能 6 各種症状のメカニズムとマネジメント 7 ターミナル期にある人の特徴と理解 ターミナル期にある人の身体的特徴・ターミナル期にある人の心理的・社会的・霊的特徴 (全人的苦痛の理解) ターミナル期にある人の死にゆくことに対する態度 ターミナル期における緩和ケア		
使用テキスト	成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 (ヌーベルヒロカワ) 系統看護学講座 別巻 がん看護学(医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する 点数配分:上岡講師&竹内講師 80点 吉田講師 20点		
備考・学生へのメッセージ	答えを出すことばかりではなく、考える過程が重要なことが多いです。		

科目名	成人看護Ⅴ			
担当教員	長谷川 琢			
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間	
科目のねらい	周手術期看護における呼吸管理を理解できる。 模擬事例の看護過程を展開し、援助方法を考え実践できる。			
到達目標	1. 気管内吸引の目的、方法を理解できる。 2. 人工肛門造設術を受ける患者の事例展開し看護計画が立案できる。 3. 1事例の模擬患者に必要な看護援助ができる。			
授業概要	術後1日目の事例を展開し、看護計画を考えグループで模擬患者へ看護援助を行います。グループワークの前に各自で事例を展開しそれを持ちより話し合います。そのため、各自の学習準備が必要になります。			
授業計画・内容	回数	授業計画	内容	
	1回目	気管内吸引について	気管内吸引の目的、方法(DVD)	
	2回目		気管内吸引デモ、気管内挿管中の患者の事例を用いて看護援助を考える	
	3回目	事例検討(個人ワーク)	人工肛門造設した患者の看護	
	4回目	事例検討(グループワーク)	事例検討したレポートを持ちより看護を考える	
	5・6回目	模擬患者に看護援助をする	各グループの看護援助場面について評価しながら看護援助について考える	
	7・8回目			
	【気管内吸引の演習について】			
	1. デモの後、グループワークを開始する。 2. 事例のアセスメントを行い看護問題を抽出する。 3. 看護問題を解決するための行動目標と具体策を考える。 4. 1～3についての記録は指定の日程に提出する。 5. グループで看護援助の練習をする(吸引モデルで練習)。 6. 担当教員と調整をとり行動目標と具体策を活用し看護技術の確認を受ける。 7. 個人レポートを提出する:テーマ「気管内吸引の演習を通して学んだこと」			
	【模擬患者の演習】			
1. 1回目の講義時に1事例の課題を提示する。 2. 自主的に課題を進める(提示された期限に課題を提出する)。 3. 課題提出後、各自のレポートを持ちより事例について話し合い看護計画を立案する。 4. グループの看護計画を基に模擬患者に行う援助を考える。 5. グループで考えた看護過程と模擬患者に援助をおこなうための本日の看護目標・行動計画を指定された日程に提出する。 6. 担当教員と調整をとり行動目標と具体策を活用し看護援助の練習をしながら工夫する。 7. 看護援助を根拠をもって説明できるプレゼンテーション用のポスターと発表原稿を作成する。 8. 模擬患者の看護援助を発表し全体討議を行い看護援助について考える。 9. 個人レポートを提出する:テーマ「模擬患者の看護演習を通しての学び」				
使用テキスト	必要時指定いたします。			
参考書	成人看護学 成人看護技術 生きた臨床技術を学び看護実践能力を高める(南江堂) DVD:医療事故を防ぐ人工呼吸ケア(ビデオ・バック・ニッポン)			
評価基準方法	*出席状況とグループへの協力状況とレポート提出及び内容をもとに総合的に行う。 点数配分:気管内吸引演習(15点) 模擬患者事例個人レポート(60点) 発表点(15点) 演習終了時のレポート(10点)			
備考・学生へのメッセージ	模擬患者の看護援助を通して看護実践について一緒に考えていきましょう。			

科目名	老年看護 I		
担当教員	田村 元男(20時間) 大久保 抄織(8時間) 松井 香織(2時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	老年期の特徴(病気・生理と老化等) 認知症高齢者の看護について学ぶ		
到達目標	高齢者の生理的特徴, 加齢変化を理解し, 高齢者特有の症状と疾患を理解する. 加齢と疾病・障害の程度に応じた老年看護の実践の必要性和方法を理解する. 認知症について理解する. 認知症がある高齢者の看護を理解する.		
授業概要	テキストを中心に, 適宜プリント配布をしながら進めていく.		
授業計画・内容	<<田村講師>> 1 高齢者の生理的特徴 2 老年症候群(各疾患についても) 3 高齢者と薬  <<大久保講師>> 1 認知症とは 認知症の診断, 認知症の症状 2 四大認知症 認知症の治療と予防 3 認知症高齢者のアセスメントの視点 4 認知症がある高齢者の看護(かかわり) 5 認知症ケアの倫理とみとり  <<松井講師>> 1 一般病床における認知症看護		
使用テキスト	系統看護学 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 (医学書院) 系統看護学 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	評価は出席状況と筆記試験をもとに総合的に行う 点数配分 田村講師 65点 大久保講師 25点 松井講師 10点		
備考・学生へのメッセージ	積極的な態度を望みます.		

科目名	老年看護Ⅱ		
担当教員	長尾 真由美(24時間) 小原 菜穂(4時間) 北山 美保(2時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	<p>老年期にある対象に特有な日常生活援助技術を学ぶ。 褥瘡発生のメカニズムとケアの方法を学ぶことができる。 フットケアの重要性とケア方法を学ぶことができる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の日常生活活動の特徴と援助について理解できる。</li> <li>2. 高齢者疑似体験を通して、高齢者の身体的変化の理解を深め、日常生活への影響を考えることができる。</li> <li>3. 高齢者の転倒の原因が理解でき、その援助を考えることができる。</li> <li>4. 高齢者の食事の意義について考えることができる。</li> <li>5. 高齢者に起こりやすい摂食・嚥下障害と栄養状態の変調、アセスメント、援助について理解できる。</li> <li>6. 高齢者への口腔ケアの必要性を理解でき、安全安楽に留意した口腔ケアを実施できる。</li> <li>7. 高齢者に起こりやすい排泄障害とアセスメント、基本的援助技術を理解する。</li> <li>8. 加齢に伴う皮膚の変化と高齢者に起こりやすい皮膚トラブル、基本的援助技術を理解する。</li> <li>9. 高齢者とのコミュニケーションについての基本的な考え方とその方法がわかる。</li> <li>10. 褥瘡発生のメカニズムとケア方法がわかる。</li> <li>11. フットケアの重要性とケア方法がわかる。</li> </ol>		
授業概要	<p>テキストとパワーポイントで講義を進めていく(プリントは適宜配布する) 講義の中でDVDを視聴することもあり、DVDは学内貸し出し可 高齢者への食事(口腔ケア)・褥瘡ケアについては演習で理解を深めていく</p>		
授業計画・内容	<p>&lt;長尾講師&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活を支える基本的活動:高齢者の基本動作とアセスメント, 転倒のアセスメントと看護, 廃用症候群のアセスメントと看護(演習:高齢者疑似体験)</li> <li>2. 高齢者の食事・食生活:食生活に注目する意義, 高齢者に特徴的な変調, 食生活と摂食・嚥下能力のアセスメント, 栄養状態のアセスメント, 食生活への看護(演習:口腔ケア・義歯洗浄)</li> <li>3. 高齢者の排泄:排泄ケアの基本姿勢, 排泄障害のアセスメントと看護</li> <li>4. 高齢者の清潔:清潔の意義, 高齢者に特徴的な変調, 清潔のアセスメントと看護</li> <li>5. 高齢者の生活リズム:高齢者と生活リズム, 高齢者に特徴的な変調, 生活リズムのアセスメント, 生活リズムを整える看護</li> <li>6. 高齢者のコミュニケーション:高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方, 高齢者におこりやすいコミュニケーション障害</li> </ol> <p>&lt;小原講師&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 褥瘡発生のメカニズム リスクアセスメント(ブレードスケール, OHスケールなど) 褥瘡予防の実際のケア・創の評価分類(NPUAP分類) 症例を通して創の治癒過程を説明</li> <li>2. 演習 創の洗浄方法の実技演習:1)洗浄方法を見学 2)グループに分かれて創の洗浄方法の実施</li> <li>3)ギャッジアップ, 背抜き, 足抜き体験</li> </ol> <p>&lt;北山講師&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フットケアの特徴を知る:1)予防的フットケア 2)治療的フットケア</li> <li>2. フットケアのための基礎知識を知る:1)足病変から治療まで</li> <li>3. フットケアのためのアセスメント:1)皮膚のバリア機能 2)全身状態と生活状況のアセスメント</li> <li>4. ケア方法:1)爪のケア2)足病変のケア</li> <li>5. 事例を通して考えるフットケア</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)		
参考書	適宜提示します		
評価基準方法	筆記試験とレポート課題・講義参加態度をもとに総合的に評価する。 点数配分:長尾講師 75点 小原講師 15点 北山講師 10点		
備考・学生へのメッセージ	認定看護師の小原講師と北山講師から、褥瘡ケアとフットケアについてより専門的な看護を学びましょう。予習復習をして講義に参加しましょう。		

科目名	老年看護Ⅲ		
担当教員	長尾 真由美(11時間) 長谷川 真弓(4時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	加齢・健康障害のレベルに応じた老年看護の実際を学ぶ。 老年期にある対象の特徴を理解し踏まえた上で、手術を受ける高齢者に特有の痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的・精神的課題を学ぶ。 また、手術に伴う苦痛を軽減し周手術期を乗り越えられるための看護のケアについて学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に見られる身体症状のアセスメントと援助について理解できる。</li> <li>2. 検査を受ける高齢者の看護について理解できる。</li> <li>3. 薬物療法を受ける高齢者の看護について理解できる。</li> <li>4. リハビリテーションを受ける高齢者の看護について理解できる。</li> <li>5. 高齢者におけるエンドオブライフケアについて考えることができる。</li> <li>6. 介護保険施設における看護と、多職種との連携についてわかる。</li> <li>7. 高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方がわかり、事例を展開できる。</li> <li>8. 手術を受ける高齢者の看護について理解できる。</li> </ol>		
授業概要	テキストとパワーポイントで講義を進めていく(プリントは適宜配布する)。 高齢者の看護過程については、事例課題で学習していく。		
授業計画・内容	<p>&lt;長尾講師&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者によく見られる症状のアセスメントと看護 発熱・脱水・痛み</li> <li>2. 治療を必要とする高齢者への看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 検査を受ける高齢者の看護</li> <li>2) 薬物療法を受ける高齢者の看護</li> <li>3) リハビリテーションを受ける高齢者の看護</li> <li>4) 入院治療を受ける高齢者の看護</li> </ol> </li> <li>3. 高齢者におけるエンドオブライフケア <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の死生観</li> <li>2) 高齢者の尊厳を守るための支援</li> <li>3) 家族への支援</li> </ol> </li> <li>4. 保健医療福祉施設における看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護保険施設で求められる看護</li> <li>2) 多職種との連携</li> </ol> </li> <li>5. 高齢者の看護過程 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方</li> <li>2) 事例の展開</li> </ol> </li> </ol> <p>&lt;長谷川講師&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護の概要 (老年看護の目標と役割 等)</li> <li>2. 高齢者のアセスメント (身体に加齢変化とアセスメント, 身体症状とアセスメント)</li> <li>3. 健康逸脱からの回復と終末期を支える看護 (手術を受ける高齢者の看護として、周手術期における様々な起こりうる症状と看護ケアについて)</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)		
参考書	適宜提示します。		
評価基準方法	筆記試験とレポート課題・講義参加態度をもとに総合的に評価する。 点数配分:長尾講師 80点 長谷川講師 20点		
備考・学生へのメッセージ	老年看護学実習Ⅰ直前の講義となります。しっかりと老年看護について学習していきましょう。 予習復習をして講義に参加しましょう。		

科目名	小児看護 I		
担当教員	熊木 美香		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	この科目では小児各期の成長・発達の特徴を理解し、健全な成長・発達を促す援助について学びます。また、子どもの健康状態を理解するための方法について学びます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各発達段階にある健康な小児の成長・発達の特徴が理解できる。</li> <li>2. 健康な小児の日常生活の在り方や支援の方法がわかる。</li> <li>3. 小児の基本的な生活習慣の獲得過程と、それを促す援助について理解する。</li> <li>4. 子どもの栄養の特徴について説明することができる。</li> <li>5. 小児のフィジカルアセスメントの方法が理解できる。</li> <li>6. 小児の身体計測・バイタルサイン測定の方法が理解できる。</li> </ol>		
授業概要	健康な子どもの理解が深まるように、講義形式だけでなく、DVDやモデル人形などを用いて、子どものイメージが付くように進めていきます。グループワーク発表後に学生同士で評価を行い、学びを深めていきます。		
授業計画・内容	<p>第1回 新生児の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新生児の特徴と各機能の発達</li> <li>2) 新生児の日常生活の世話</li> </ol> <p>第2～6回 乳幼児の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳幼児の身体的特徴と各機能の発達</li> <li>2) 基本的な生活習慣獲得のための援助</li> <li>3) 遊びの援助</li> </ol> <p>各発達段階別おもちゃの作成・発表(グループワーク発表)</p> <p>第7回 学童の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学童の身体的特徴と各機能の発達</li> <li>2) 学童の養育および看護</li> </ol> <p>第8回 思春期の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 思春期の身体的特徴と各機能の発達</li> <li>2) 心理・社会的適応</li> </ol> <p>第9～11回 小児の栄養</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発達段階別子どもの栄養の特徴</li> </ol> <p>調乳・離乳食の実際(演習・レポート提出)</p> <p>第12～15回 小児のアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児のフィジカルアセスメント</li> <li>2) 小児の身体計測・バイタルサイン測定(演習・レポート提出)</li> </ol> <p>* 授業の順番変動の可能性がります。</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護概論(医学書院) 写真でわかる小児看護技術アドバンス		
参考書	こどものフィジカルアセスメント(金原出版)		
評価基準方法	授業への参加状況及びレポート等の提出物(15%)、筆記試験(85%)を合算し総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ	予習・復習をして講義に臨んでください。		

科目名	小児看護Ⅱ		
担当教員	佐藤 俊哉(14時間) 堤 亜希子(8時間) 田中 小百合(8時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	健康障害が小児の成長、発達に与える影響を理解し、様々な状況にある小児と家族への看護を学ぶ。		
到達目標	1.小児の代表的な疾患について、病態、治療が理解できる。 2.健康レベルや状況に応じた子どもと家族の看護について理解できる。 3.小児の検査や処置に必要な看護が理解できる。		
授業概要			
授業計画・内容	1 新生児 2 子どもの心 3 呼吸器系疾患・循環器系疾患 4 腎泌尿器系疾患・神経系疾患・内分泌系疾患 5 免疫系疾患・アレルギー系疾患・小児の救急と中毒 6 感染症とワクチン・院内感染対策 7 データ・漢方治療・サプリメント 8 疾病・障害を持つ小児と家族の看護, 小児における疾病の経過と看護 9 入院中の小児と家族の看護 10 症状を示す子どもの看護 機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・チアノーゼ・発熱・嘔吐・下痢・脱水 便秘・痙攣・意識障害・発疹 11 外来受診を必要とする小児と家族の看護 検査・処置総論(プレパレーション) 12 在宅療養中の小児と家族の看護 13 検査・治療を受ける小児の看護 薬物動態・与薬(内服・座薬)・注射・輸液管理・骨髄穿刺・腰椎穿刺 抑制・採尿・経管栄養・吸引・酸素療法・一次救命処置・吸入・採血 プレパレーションの実際(内服・吸入・採血・点滴・皮下注射・CT)		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学各論 小児看護学②(医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学①(医学書院) 写真でわかる小児看護技術(インターメディカ)		
参考書			
評価基準方法	成績評価はレポート・筆記試験をもとに総合的に行う。 点数配分 佐藤講師 50点 堤講師 25点 田中講師 25点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	母性看護 I				
担当教員	古堂 俊哉(10時間) 藤本 沙織(20時間)				
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間		
科目のねらい	妊娠・分娩・産褥及び新生児の正常と異常の経過及びその診断や管理方法について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の身体的変化, 心理・社会的変化を説明することができる。</li> <li>2. ハイリスク及び異常妊娠の要因や診断, その対応を述べることができる。</li> <li>3. 異常分娩の要因や診断, その対応を述べることができる。</li> <li>4. 新生児の異常の要因や診断, その対応を述べることができる。</li> </ol>				
授業概要	藤本担当の範囲は, テキスト, 資料, パワーポイントを使用して講義をすすめ, 単元終了後に小テストがあります。				
授業計画・内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><b>1. 正常な妊娠期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 妊娠期の身体的特性: 妊娠の整理, 胎児の発育とその生理, 妊娠時の生理</p> <p>2) 妊婦と胎児のアセスメント: 妊娠の診断, 妊婦健康診査, 胎児心拍モニタリング</p> <p>3) 妊娠期の心理・社会的特性</p> <p><b>2. 正常な分娩期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 分娩の要素, 分娩の定義, 分娩の3要素</p> <p>2) 分娩の経過: 分娩の機序, 分娩の進行と産婦の身体的変化・胎児に及ぼす影響, 分娩進行の評価</p> <p>3) 産婦の心理的・社会的変化</p> <p><b>3. 正常な産褥期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 産褥期の身体的(退行性変化・進行性変化)</p> <p>2) 褥婦の心理・社会的変化</p> <p>愛着, 母子相互作用, 家族の心理的变化</p> <p>ソーシャルサポート, 退院後について</p> <p><b>4. 新生児の生理 (藤本)</b></p> <p>1) 新生児の生理: 新生児の定義, 胎外生活への適応過程と新生児の機能</p> <p>2) 新生児のアセスメント: 新生児の診断, 新生児の健康状態のアセスメント</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><b>5. 正常を逸脱した妊娠期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) ハイリスク妊娠: 妊娠合併症, 妊娠中の薬物, 使用, 感染症</p> <p>2) 妊娠疾患: 妊娠悪阻, 妊娠高血圧症候群, 血液型不適合妊娠</p> <p>3) 妊娠期間異常: 流早産</p> <p>4) 多胎妊娠, 子宮外妊娠, 胎状奇胎</p> <p><b>6. 正常を逸脱した分娩期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) 分娩の異常: 骨産道, 軟産道の異常, 微弱陣痛過強陣痛</p> <p>2) 胎児付属物の異常: 胎盤(前置胎盤, 低置胎盤, 常位胎盤早期剥離), 臍帯・卵膜, 羊水(羊水過少・羊水過多)の異常</p> <p>3) 産科処置と産科手術: 帝王切開</p> <p><b>7. 正常を逸脱した産褥期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) 子宮復古不全, 産褥熱</p> </td> </tr> </table>			<p><b>1. 正常な妊娠期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 妊娠期の身体的特性: 妊娠の整理, 胎児の発育とその生理, 妊娠時の生理</p> <p>2) 妊婦と胎児のアセスメント: 妊娠の診断, 妊婦健康診査, 胎児心拍モニタリング</p> <p>3) 妊娠期の心理・社会的特性</p> <p><b>2. 正常な分娩期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 分娩の要素, 分娩の定義, 分娩の3要素</p> <p>2) 分娩の経過: 分娩の機序, 分娩の進行と産婦の身体的変化・胎児に及ぼす影響, 分娩進行の評価</p> <p>3) 産婦の心理的・社会的変化</p> <p><b>3. 正常な産褥期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 産褥期の身体的(退行性変化・進行性変化)</p> <p>2) 褥婦の心理・社会的変化</p> <p>愛着, 母子相互作用, 家族の心理的变化</p> <p>ソーシャルサポート, 退院後について</p> <p><b>4. 新生児の生理 (藤本)</b></p> <p>1) 新生児の生理: 新生児の定義, 胎外生活への適応過程と新生児の機能</p> <p>2) 新生児のアセスメント: 新生児の診断, 新生児の健康状態のアセスメント</p>	<p><b>5. 正常を逸脱した妊娠期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) ハイリスク妊娠: 妊娠合併症, 妊娠中の薬物, 使用, 感染症</p> <p>2) 妊娠疾患: 妊娠悪阻, 妊娠高血圧症候群, 血液型不適合妊娠</p> <p>3) 妊娠期間異常: 流早産</p> <p>4) 多胎妊娠, 子宮外妊娠, 胎状奇胎</p> <p><b>6. 正常を逸脱した分娩期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) 分娩の異常: 骨産道, 軟産道の異常, 微弱陣痛過強陣痛</p> <p>2) 胎児付属物の異常: 胎盤(前置胎盤, 低置胎盤, 常位胎盤早期剥離), 臍帯・卵膜, 羊水(羊水過少・羊水過多)の異常</p> <p>3) 産科処置と産科手術: 帝王切開</p> <p><b>7. 正常を逸脱した産褥期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) 子宮復古不全, 産褥熱</p>
<p><b>1. 正常な妊娠期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 妊娠期の身体的特性: 妊娠の整理, 胎児の発育とその生理, 妊娠時の生理</p> <p>2) 妊婦と胎児のアセスメント: 妊娠の診断, 妊婦健康診査, 胎児心拍モニタリング</p> <p>3) 妊娠期の心理・社会的特性</p> <p><b>2. 正常な分娩期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 分娩の要素, 分娩の定義, 分娩の3要素</p> <p>2) 分娩の経過: 分娩の機序, 分娩の進行と産婦の身体的変化・胎児に及ぼす影響, 分娩進行の評価</p> <p>3) 産婦の心理的・社会的変化</p> <p><b>3. 正常な産褥期の経過 (藤本)</b></p> <p>1) 産褥期の身体的(退行性変化・進行性変化)</p> <p>2) 褥婦の心理・社会的変化</p> <p>愛着, 母子相互作用, 家族の心理的变化</p> <p>ソーシャルサポート, 退院後について</p> <p><b>4. 新生児の生理 (藤本)</b></p> <p>1) 新生児の生理: 新生児の定義, 胎外生活への適応過程と新生児の機能</p> <p>2) 新生児のアセスメント: 新生児の診断, 新生児の健康状態のアセスメント</p>	<p><b>5. 正常を逸脱した妊娠期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) ハイリスク妊娠: 妊娠合併症, 妊娠中の薬物, 使用, 感染症</p> <p>2) 妊娠疾患: 妊娠悪阻, 妊娠高血圧症候群, 血液型不適合妊娠</p> <p>3) 妊娠期間異常: 流早産</p> <p>4) 多胎妊娠, 子宮外妊娠, 胎状奇胎</p> <p><b>6. 正常を逸脱した分娩期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) 分娩の異常: 骨産道, 軟産道の異常, 微弱陣痛過強陣痛</p> <p>2) 胎児付属物の異常: 胎盤(前置胎盤, 低置胎盤, 常位胎盤早期剥離), 臍帯・卵膜, 羊水(羊水過少・羊水過多)の異常</p> <p>3) 産科処置と産科手術: 帝王切開</p> <p><b>7. 正常を逸脱した産褥期の経過 (古堂)</b></p> <p>1) 子宮復古不全, 産褥熱</p>				
使用テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護各論母性看護②				
参考書	病気がみえるVol. 10産科第3版 (MEDIC MEDIA) アセスメントスキルを修得し質の高い周産期ケアを追求する母性看護学Ⅱ周産期各論 (医歯薬出版株式会社)				
評価基準方法	講義終了後の筆記試験(古堂講師40%・藤本講師60%)で評価する。				
備考・学生へのメッセージ	予習・復習をして講義に臨んでください。				

科目名	母性看護Ⅱ		
担当教員	古谷 美華(14時間) 藤本 沙織(16時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理的变化をふまえ、対象とその家族に必要な看護を展開できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児のアセスメントの視点について根拠づけて述べることができる。</li> <li>2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について述べるができる。</li> <li>3. 正常を逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について述べるができる。</li> <li>4. 家族に対する看護の必要性とその方法について述べるができる。</li> </ol>		
授業概要	テキスト、資料、パワーポイントを使用して講義をすすめます。 藤本担当の範囲は、単元終了後に小テストがあります。		
授業計画・内容	<p><b>1. 妊婦と家族の看護(藤本)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 日常生活に関するアセスメント 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント</li> <li>2)妊婦の保健指導:食生活・排泄・活動と休息 勤労・性生活・マイナートラブル</li> <li>3)親になるための準備教育</li> <li>4)正常を逸脱した妊婦と胎児の看護 ハイリスク妊婦(高年妊婦、若年妊婦、未婚・再婚妊婦妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、切迫流早産・子宮外妊娠、多胎妊娠、合併症をもつ妊婦など)の看護</li> </ol> <p><b>2. 産婦と家族の看護(古谷講師)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)産婦と胎児の健康状態のアセスメント</li> <li>2)分娩経過のアセスメント</li> <li>3)分娩進行に伴う反応のアセスメント</li> <li>4)基本的ニードに関するアセスメント</li> <li>5)産婦と家族の心理・社会面のアセスメント</li> <li>6)分娩期の看護の実際 入院の時期、分娩第1～4期の産婦の身体的・心理的・社会的特徴と看護の実際、出産の振り返り</li> <li>7)正常を逸脱した産婦の看護 前早期破水、陣痛の異常(微弱陣痛、過強陣痛、分娩誘発、過期妊娠、胎児機能不全、吸引分娩、帝王切開術、分娩時異常出血(弛緩出血、膣会陰の血腫、会陰切開、会陰裂傷)前置胎盤、常位胎盤早期剥離の看護</li> </ol>	<p><b>3. 褥婦と家族の看護(古谷講師)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)褥婦の健康状態のアセスメント 産褥経過の診断(退行性変化・進行性変化・その他の症状)</li> <li>2)身体機能の回復と進行性変化の看護 褥婦のセルフケア不足に対する看護(活動と休息、栄養、排泄、清潔、産後の疼痛への対処)、セルフケア能力を高める看護</li> <li>3)母乳育児</li> <li>4)家族関係構築への看護</li> <li>5)母子の関する社会資源と諸制度</li> <li>6)正常を逸脱した褥婦への看護 子宮復古不全・産褥熱・その他の感染症の看護、産褥期における精神障害への看護</li> <li>7)母子分離時・死産時の看護</li> </ol> <p><b>4. 新生児の看護(藤本)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)出生直後の看護</li> <li>2)出生後から退院時までの看護</li> <li>3)新生児の異常と看護 新生児仮死、分娩外傷(頭血腫、産瘤、帽状腱膜下出血、腕神経叢麻痺、鎖骨骨折)、低出生体重児、呼吸障害、先天性代謝異常症、新生児の奇形および形態異常</li> </ol>	
使用テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護各論母性看護(2)		
参考書	病気がみえるVol. 10産科第3版 (MEDIC MEDIA) アセスメントスキルを修得し質の高い周産期ケアを追求する母性看護学Ⅱ周産期各論 (医歯薬出版株式会社)		
評価基準方法	授業終了後の筆記試験(古谷講師50%・藤本50%)の点数によって評価する。		
備考・学生へのメッセージ	予習・復習をして講義に臨んでください。		

科目名	精神看護 I		
担当教員	清水 祐輔&嶋岡 修平&内藤 大&青木 礼奈		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	生活の場における様々な精神保健上の問題について理解し、健康な生活を維持するために必要な精神保健活動について学ぶ。 主な精神疾患や症状、精神障がいの特徴、治療について理解できる。		
到達目標	生活の場における様々な精神保健上の問題について理解し、健康な生活を送るために必要な精神保健活動について学ぶ。 主な精神疾患や症状、精神障害の特徴、治療について理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論, 疾病論, 現代の日本人が置かれていた状況</li> <li>2 統合失調症</li> <li>3 気分障害(感情障害, そううつ病, うつ病)</li> <li>4 てんかん, 精神保健と言われた分野の総論</li> <li>5 認知症, 症状精神病, 老年期の問題</li> <li>6 アルコールの問題, 麻薬中毒など</li> <li>7 神経症といわれていた病状, 摂食障害, 精神療法について</li> <li>8 精神遅滞, 発達障害, 発達の諸段階から中年期までの問題</li> <li>9 精神障害の治療について, 抗精神薬などの説明</li> <li>10 精神医学の歴史, 重要な法律, 社会状況など</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	精神看護Ⅱ		
担当教員	中村 創(4時間) 松井 香織(8時間) 佐藤 かをり(18時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	精神に障がいをもつ対象とその家族の生活を援助するための基礎的知識を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の実践に必要な知識, 理論, 技法を理解する。</li> <li>2. 精神症状, 精神疾患の知識を基盤とし, 精神に障害をもつ人への援助方法を理解する。</li> <li>3. 家族の看護について理解できる。</li> </ol>		
授業概要			
授業計画・内容	<p>&lt;松井講師&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院治療と治療的環境における看護</li> <li>2. 行動制限と看護</li> <li>3. 治療に伴う検査と看護 心理検査、脳波検査、CT・MRI検査、電気けいれん療法</li> <li>4. 精神症状・精神状態の理解と看護 幻覚妄想状態、躁状態、抑うつ状態、せん妄状態、昏迷状態、無為・自閉状態、アルコール離脱症状</li> </ol> <p>&lt;中村講師&gt; 講義に提示する</p>	<p>&lt;佐藤講師&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアの間関係</li> <li>2. 看護で活用する技法</li> <li>3. 精神疾患と看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合失調症の理解と看護</li> <li>・気分障害の理解と看護</li> <li>・精神症性障害、身体表現性障害、ストレス関連障害の理解と看護</li> <li>・精神作用物質使用による精神障害および行動の障害の理解と看護</li> <li>・てんかんの理解と看護</li> <li>・パーソナリティ障害の理解と看護</li> </ul> </li> <li>4. 薬物療法の理解と看護</li> <li>5. 精神科における看護の役割</li> <li>6. 精神科看護における家族支援</li> </ol>	
使用テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学[1]医学書院 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学[2]医学書院 学生のための精神看護学 医学書院		
参考書			
評価基準方法	筆記試験、出席状況により総合的に評価する。 点数配分 中村講師(15点) 松井講師(35点) 佐藤講師(50点)		
備考・学生へのメッセージ	教科書の該当ページ, 配布プリントを確認し, 授業に臨んでください。精神の障がいが生活に及ぼす影響を理解し, 健康的力に着目する援助, 倫理観, 権利擁護について考えを深めましょう。		

科目名	在宅看護概論		
担当教員	樋口 秋緒(16時間) 永森 克志(2時間) 小山 仁(2時間) 外崎 みさき・大谷 奈穂子(4時間) 金田 百香(6時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	在宅看護の概念を学び、在宅看護の目的・機能・役割を理解する。		
到達目標	1.在宅看護の目的、対象特徴を理解する。 2.在宅療養者とその家族の抱えるニーズを考えることができる。 3.在宅看護の立場とその特徴について理解する。 4.在宅看護の制度とその特徴について理解する。 5.在宅療養を支える社会資源と在宅ケアシステムを理解する。 6.在宅看護の課題と今後の方向性を理解する。 7.在宅看護の歴史を知ることができる。		
授業概要	この講義では、在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会背景を踏まえ、日本の在宅ケア・在宅看護に関連する制度やシステムについて学習します。何らかの健康障害をもちながら在宅で生活する人々と、その家族の生活の質の向上を目指した看護を実践するために必要な基本的な考え方と基礎知識を学びます。		
授業計画・内容	<p>≪樋口講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>在宅看護の位置づけ 在宅ケアが必要とされる背景 在宅看護の目的</li> <li>在宅看護の機能と役割</li> <li>在宅看護の対象の理解 在宅で療養する人とその特徴 在宅療養を支える人とその特徴</li> <li>在宅看護と倫理 在宅看護に必要な倫理的背景と関連する背景 在宅看護の倫理的課題とその実態</li> </ol> <p>≪永森講師≫ 在宅看護における医師との連携</p> <p>≪小山講師≫ 社会的背景と地域包括ケアシステム</p> <p>≪外崎講師 大谷講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療圏と施設機能 退院支援、退院調整</li> <li>施設内看護師の役割 看看連携について</li> </ol> <p>≪金田≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>在宅看護の変遷と訪問看護</li> <li>訪問看護の動向と制度 訪問看護ステーションの成り立ち 介護保険制度と訪問看護 医療保険制度と訪問看護</li> <li>諸外国の訪問看護</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 在宅看護論 (医学書院) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)		
参考書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) 在宅看護学講座 (ナカニシヤ出版) 新版 在宅看護論 (医歯薬出版株式会社) 在宅看護論 実践をこばに 第6版 (ヌーベルヒロカワ)		
評価基準方法	点数配分 樋口講師 55点 永森講師 5点 小山講師 5点 外崎講師・大谷講師 10点 金田 25点		
備考・学生へのメッセージ	3年次の実習につながる重要な科目です。授業計画・内容に提示した部分を予習して授業に臨んでください。 実践の場で活躍している複数の講師により授業が行われます。積極的姿勢で臨んでください。		

科目名	在宅看護 I		
担当教員	島田 啓志(2時間) 柴田 ひとみ(10時間) 中村 創(4時間) 大串 真紀子(4時間) 金田 百香(10時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	何らかの健康障害をもちながら地域で生活している療養者とその家族を理解し、看護の展開について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな事例から、療養者と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を理解することができる。</li> <li>2. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を理解することができる。</li> <li>3. 療養者とその家族に応じた生活支援の方法と技術を理解することができる。</li> <li>4. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開を学ぶことができる。</li> <li>5. 医療ケアを必要とする療養者やその家族に、状況に応じた安全な管理方法を学ぶことができる。</li> </ol>		
授業概要	この講義では、在宅で生活している療養者の方々に多い疾患に対する看護展開について学んでいきます。さまざまな疾患や家族背景を知り、基礎看護学で学んだフィジカルアセスメント力を応用する必要性を学びます。 また、各事例を通して、訪問看護の導入・援助技術・介護保険の活用について具体的な内容を学んでいきます。		
授業計画・内容	≪島田講師≫ 在宅における終末期の支援・意思決定支援 ≪大串講師≫ 1.化学療法をうける療養者の在宅看護 病院における外来化学療法 多職種との連携 在宅でのセルフケア 外来看護 ≪柴田講師≫ 1.脳卒中後遺症の療養者の在宅看護 2.独居の療養者の在宅看護 3.認知症療養者の在宅看護 4.在宅における終末期の看護 ≪中村講師≫ 1.精神疾患の療養者の在宅看護 病院における精神科看護と訪問看護の違いについて 精神疾患の療養者への援助について 家族支援について ≪金田≫ 1.在宅看護介入時期別の特徴 2.パーキンソン病の療養者に対する在宅看護 3.ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護 4.COPDの療養者に対する在宅看護 5.小児の療養者の在宅看護		
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術(メディカ出版)		
参考書	ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開 (ふくろう出版) 強みと弱みから見た 在宅看護過程+総合的機能関連図 (医学書院)		
評価基準方法	試験配分 島田講師 5点 柴田講師 40点 中村講師 10点 大串講師 10点 金田 35点		
備考・学生へのメッセージ	3年次の実習につながる重要な科目です。ここで示す看護展開を応用し、実習を進めていくこととなります。授業計画・内容に提示した教科書の該当部分を予習して授業に臨んでください。 実践の場で活躍されている講師により授業が行われます。積極的姿勢で臨んでください。		

科目名	在宅看護Ⅱ		
担当教員	金田 百香		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	地域で生活する療養者とその家族に基礎看護技術を応用し、療養生活の継続を可能にするための訪問看護の役割と援助技術を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.在宅看護の対象者(療養者とその家族)が生活している地域を理解する。</li> <li>2.初回訪問の重要性を理解することが出来る。</li> <li>3.療養者に必要な援助方法を考えることが出来る。</li> <li>4.訪問看護に必要なコミュニケーションを実施することが出来る。</li> <li>5.訪問看護に必要な準備・片づけを実施することが出来る。</li> </ol>		
授業概要	この講義では、二つの演習を行います。一つ目は、地域にある保健・医療・介護施設を知り地域ネットワークの状況を把握するために地域をリサーチマップの作成・発表を行います。二つ目は、紙上事例に対する行動計画を作成し、実際の訪問看護を想定した演習を行います。どちらも、グループワークを行い、発表します。		
授業計画・内容	<p>1回目 講義 グループワークの進め方・テーマの説明</p> <p>2～4回目 グループワーク 地域マップの作成 「社会資源とその活用の実際」 「地域の社会資源マップからみる地域の在宅療養支援の現状と課題」</p> <p>5回目 発表</p> <p>6回目 講義 事例の説明 在宅における援助技術について</p> <p>7～15回目 グループワーク 演習の発表 「訪問看護の実際」</p> <p>「訪問看護の実際」の演習発表は、在宅看護実習室で行ないます。</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 統合 在宅看護論 (医学書院) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術(メディカ出版)		
参考書	強みと弱みからみた在宅看護過程+総合機能関連図 (医学書院) ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)		
評価基準方法	成績は、筆記試験 60%、レポート 30%(地域マップ発表後10%・訪問看護演習後20%)、訪問看護演習 10%で評価します。  レポートは、演習発表後に書いて提出となります。準備をしてください。 レポートと演習の採点基準は、講義内で伝えます。		
備考・学生へのメッセージ	3年次の在宅実習に繋がる学習です。学んだことが実習で活かされます。主体的に学んでいくとともに、懐疑的なものの見方や自由な発想に期待します。 また、他者の発表を聞くことで自分の考えが深まり、振り返る機会になります。		